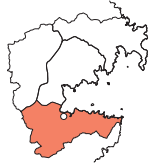


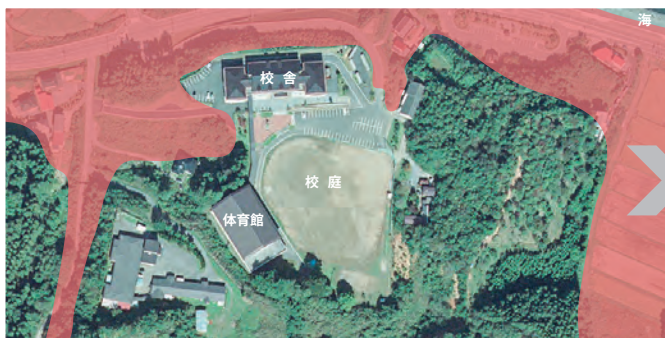
津波は山から襲って来た ～南三陸町立戸倉中学校～



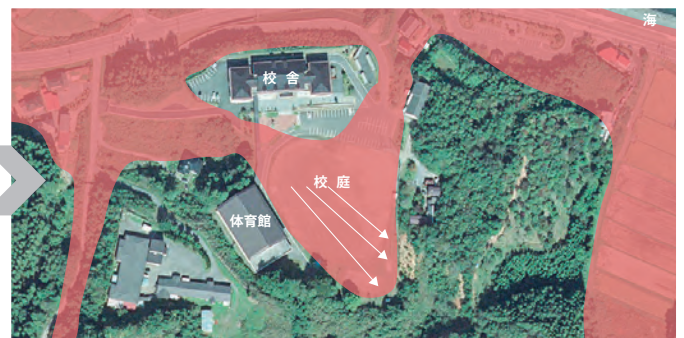
▲戸倉中学校の体育館の天井近くにまで津波は到達した。校庭にいた人々は一目散に山に走り、崖を這い上がったが、その目の前で多くの住民たちが流されて行った。写真提供 須藤清一

指定避難場所になっていた戸倉中学校は、海拔 20m ほどの高台にあった。激しい本震と続く余震のため、校舎や体育館は落下物や倒壊の危険があると判断し、生徒たちと地域住民は校庭に集まっていた。15 時 25 分が過ぎた頃、戸倉地区に津波が襲来した。津波は海側からだけではなく、校舎の左側の山側からも襲いかかってきた。津波は 22.6m に達し、校舎 1 階と体育館を飲み込み、校舎と体育館をつないでいた渡り廊下は大破した。教職員 1 名、生徒 1 名のほか、多くの地域住民が亡くなった。もしあの日、寒さを避けるために体育館に入っていたら、さらなる大惨事になっていたと住民たちは振り返る。

南三陸町では、この戸倉中学校を含む 78 箇所の指定避難所・避難場所のうち、34 箇所に津波が押し寄せ、多くの住民が犠牲になった。



▲右方向の海側からやって来るといった津波は左側の体育館の方からも襲いかかってきた。



▲校庭に避難していた地域住民や生徒たちは校庭奥の崖に向かって散り散りに逃げたが…。